

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

#### 4 本校の参加状況

- |      |     |
|------|-----|
| ① 国語 | 52人 |
| ② 算数 | 52人 |
| ③ 理科 | 52人 |

#### 5 留意事項

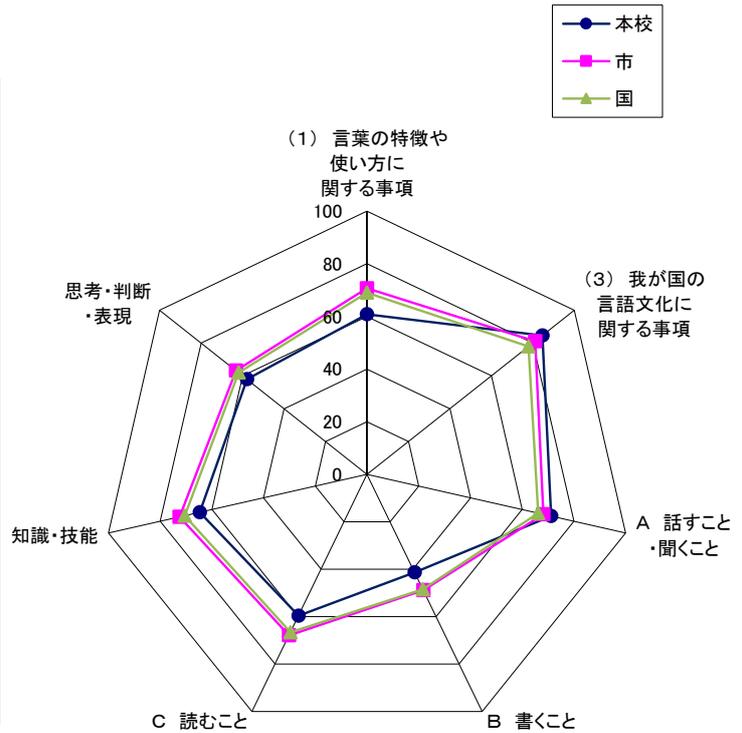
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立国本中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	60.8	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.6	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	71.2	68.2	66.2
	B 書くこと	41.3	48.9	48.5
	C 読むこと	59.6	67.9	66.6
観点	知識・技能	64.7	72.5	70.5
	思考・判断・表現	57.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

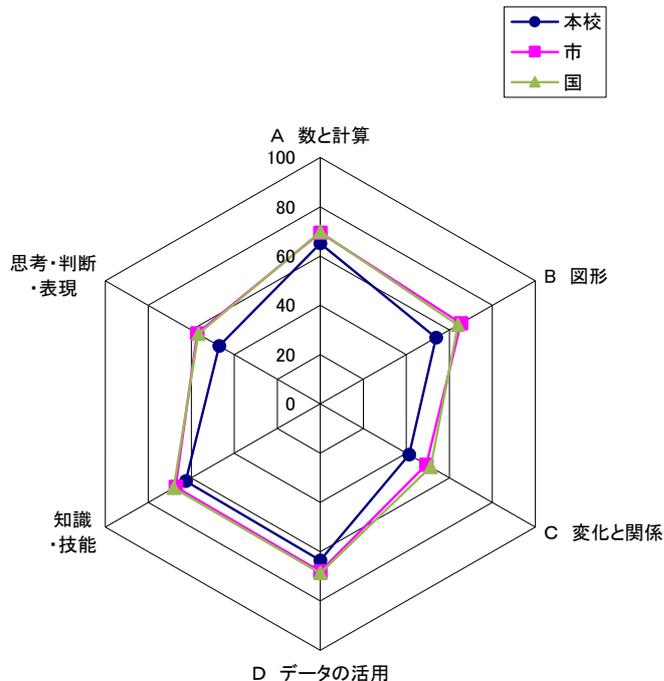
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく書く」問題では、平均正答率が51.9%、国よりも11.8ポイント下回った。</li> <li>●「児童の発言理由として適切なものを選ぶ」問題では、平均正答率が74.0%で、国よりも3.1ポイントわずかに下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・漢字練習をする際、漢字や熟語のみの練習ではなく、熟語を使った文章で練習をするようにする。</li> <li>・話し合いの場で、相手の意見を受け止めたり認めたりするための言葉の習得を図る。</li> </ul>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」問題では、正答率が84.6%と、国より6.7ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで通り、ノートの取り方において丁寧な指導をしていく。</li> </ul>
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことと中心と捉える」問題では、正答率が94.2%と、国より9.5ポイント上回った。</li> <li>●「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題では、正答率が国とほぼ同程度であったが、無回答率が3.8%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの教科においても話し合いの場を設け、ペア活動やグループ活動を多く取り入れることで、自分の言いたいことを要約して伝える訓練をする。</li> </ul>
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」問題では、51.9%で、国より7.3ポイント下回った。</li> <li>●「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」問題では、21.2%の無回答率であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習ノートを活用し、振り返りを文章で書かせることで、文章を書くことに慣れさせる。主語と述語を使って正しく書かせるようにする。</li> <li>・朝の学習等で、自分の感想や意見を書く活動を取り入れる。</li> </ul>
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」問題では、71.2%で、国より2.9ポイント上回っている。しかし、無回答が13.5%と高い。</li> <li>●「表現の効果を考える」問題では、48.1%で、国より11.1ポイント下回った。無回答率も県より倍近く多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章から共感した1文を見付け、その理由を書かせる。その活動を通し、自分の思いを書くことに慣れさせる。また、自分の思いをもつことで、他者の思いに対する想像力を育てる。</li> </ul>

# 宇都宮市立国本中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.1	69.5	69.8
	B 図形	53.8	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	41.3	49.3	51.3
	D データの活用	63.5	68.0	68.7
観点	知識・技能	62.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	47.0	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

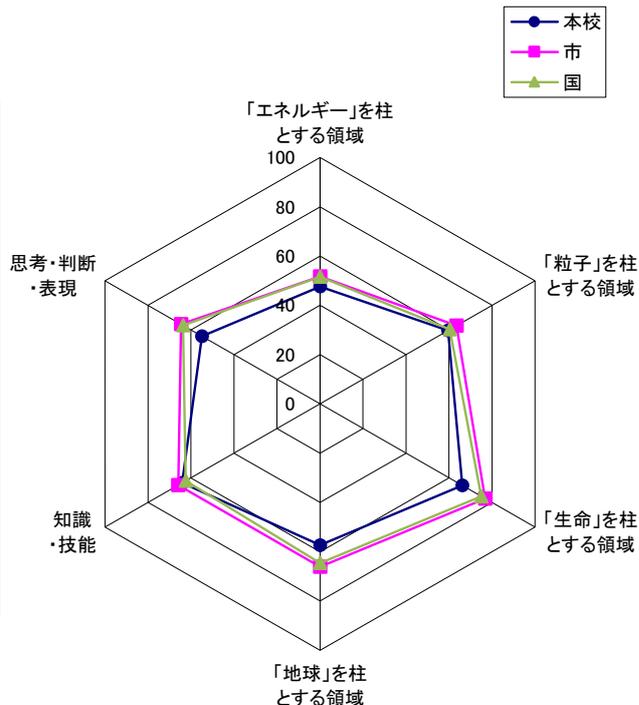
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「表の意味を理解し、ある項目に当たる数を求める」問題では、平均正答率が69.2%で全国平均よりも6.1ポイント下回った。</li> <li>●「加法と乗法の混合した数の求め方を記述する」問題では、平均正答率が53.8%で全国平均よりも13.9ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題場面を正確に理解できるようにするために、類似問題に取り組ませ、問題の意味や求めるべき数を明らかにできるようにする。</li> </ul>
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「正三角形の構成の仕方について考察し、記述する」問題では、平均正答率が25.0%で全国平均よりも23.8ポイント下回った。</li> <li>●「図形を構成する要素に着目し、ひし形であることを判断する」問題では、平均正答率が55.8%で全国平均よりも10.7ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングの基本的な操作やその特性を把握させるとともに、様々な図形を「プログラム」して作図させる機会を増やすようにする。</li> </ul>
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「数量と割合の関係についての考察する」問題では、平均正答率が13.5%で全国平均よりも7.9ポイント下回った。</li> <li>●「伴って変わる二つの数量における未知の数量の求め方の答えを記述する」問題では、平均正答率が30.8%で全国平均よりも17.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えが分かっているにもかかわらず、なぜその答えが導き出されるのかについて記述する問題等には苦手意識をもっている様子が見られる。答えを出すまでのプロセスについて、授業中、共通理解を図ったり、そのプロセスをノートに書かせたりする機会を設ける。</li> </ul>
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「目的に応じてデータの特徴を捉え考察する」問題では、平均正答率が55.8%で全国平均よりも7.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの見方や、整理の仕方に慣れ親しめるよう、活動の機会を多くたせる。また、どこに着目すれば、よりよい分類整理ができるかを考えさせる。</li> </ul>

# 宇都宮市立国本中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	47.6	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	59.6	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	66.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	57.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	64.1	65.9	62.5
	思考・判断・表現	54.9	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	●「問題に対するまとめにおいて、実験の結果を基にまとめの根拠を書く」問題では、平均正答率25.0%で、国より10.1ポイント下回った。	・実験の結果を考察し、根拠を明らかにして、問題に対して自分の言葉でまとめる活動を計画的に授業で取り入れるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○「メスシリンダーの名称や正しい扱い方を問う」問題では、平均正答率が85.6%で、国より16.7ポイント上回った。 ●「水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶ」問題では、平均正答率44.2%で、国より18.6ポイント下回った。	・自分で発想した予想と、実験の結果を基にした自分のまとめを検討し改善するために、ICTの活用や学習形態の工夫を行っていく。
「生命」を柱とする領域	●「生命における観察において、収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、その内容を記述する」問題では、平均正答率が55.8%で、国より12.8ポイント下回った。	・授業の中で、お互いの観察結果を交流する場を設けたり、問題に対するまとめを行ったりする活動を取り入れる。 ・さらに、まとめを記述する際には、どの情報を取り入れたのか根拠を明らかにするよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	●水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかを問う問題では、平均正答率が48.1%で、国より13.9ポイント下回った。	・水の状態変化を正しく理解し、身近な自然現象に興味・関心を高めることができるように、日常の気象や自然現象を話題にしたりしながら、指導の工夫を行っていく。

## 宇都宮市立国本中央小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の設問に関しては、53.8%と全国平均を13.1ポイント上回り、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の設問に関しては、76.9%と全国平均を20.1ポイント上回っている。このことから、児童は規則正しい生活ができていくことがわかる。今後も続けさせたい。

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問に関しては、きちんと守っているが53.8%で全国平均を14.4ポイント上回っている。今後も続けさせたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の設問に関しては、51.9%と全国平均を12.5ポイント上回った。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問に関しては、71.2%と全国平均を24.9ポイント上回った。このことから、これからも引き続き、児童の良いところをたくさん褒めて、自己肯定感を高めさせたい。

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の設問に関しては、50.0%で全国平均を11.2ポイント上回っている。今後も自分で決めることを大切にさせるよう、日頃から指導をしていく。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の設問に関しては、61.5%と全国平均を16.6ポイント上回っている。今後も相手を思いやる気持ちを大切にさせたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問に関しては、63.5%で全国平均を28ポイント上回っている。今後も個に応じて支援を続けていきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問に関しては、71.2%と全国平均を19.5ポイント上回った。多くの児童が日々の生活に満足を得られているのがわかる。

●「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問に関しては、「30分以上、1時間より少ない」と回答している割合が40.4%と全国平均を14.6ポイント上回っていることがわかる。家庭学習の時間の確保ができるよう、宿題に付け加えて自主学習への取組を強化させていく必要がある。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日にどれくらいの時間、読書を読みますか」の設問に関しては、「全くしない」と回答している割合が6.4ポイント上回った。しかし、「読書は好きですか」の設問に関しては、肯定割合が46.2%と全国平均を4.3ポイント上回っていることから、読書への関心は高いことがわかる。忙しい生活の中でも読書をする時間の確保を促し、指導していく必要がある。

●「算数の授業の内容はよくわかりますか」の設問に関しては、当てはまると回答した割合は34.6%と全国平均を11ポイント下回った。算数への苦手意識が高まらないように、学級の実態に合わせた授業改善をしていく必要がある。基礎・基本の

## 宇都宮市立国本中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書くこと」への苦手意識を減らすための取組	朝の学習の時間を利用して、月に2回、テーマに合わせた作文を書くことを行い、文章を書くことに慣れるようにする。	国語・算数・理科の教科において、記述式に対する無回答率が、国全体、県全体と比べても高い。
学習後の振り返りの場の設定	授業の最後に、本時のめあてに対する学びの振り返りを行い、自分の学んだ内容や身についたことの確認ができるようにする。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答割合は、国全体・県全体の肯定的回答割合より上回った。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関わる調査において、漢字や計算など、基本的な知識・技能に関わる問題であっても全国平均よりも低い。	宮っ子学力ステップアップシートを活用して、学習内容の定着を図る指導の	朝の学習の時間を活用して、前学年のステップアップシートを行う。年度末には、現学年でのステップアップシートを実施することで定着を図る。
質問紙調査において、家庭学習の時間が「1時間未満」と回答している児童の割合が、全国平均より多く、家庭学習の時間が短いことを分る。	家庭学習の定着を図る工夫。	児童が自分で考えて学習できるようにするため、自主学習のヒント集を活用したり、お手本となるような自主学習の取り組みを紹介したりする。保護者への啓発として、学習指導だよりを発行したり、学級懇談会において実情を話したりする。